

富山県立中央病院 新棟基本計画 (概要)

(がん等の高度専門医療及び緊急時医療の充実強化)

新棟の必要性

1 高齢者の増加に伴い、がん患者も増加の一途

- (1) 富山県がん対策推進条例が制定され、県立中央病院が県内唯一の県がん診療連携拠点病院として、他の病院では対応困難な患者を積極的に受け入れて高度専門医療を推進することがますます重要
- (2) 一方で、県立中央病院の現診療棟や現病棟は約 20 年経過→高度専門医療を行う治療室、最先端の手技を行う手術室、緊急時対応の病室等が狭隘又は不足

2 東日本大震災を教訓として、緊急時医療体制の充実強化

- ・ 県立中央病院が基幹災害拠点病院として、災害時や新型インフルエンザ等の感染症パンデミック期に、病院運営を継続していくとともに、被災地からの搬送患者の受入れ態勢を万全にしておくことが重要

新棟整備スケジュール

H 2 5 年度 (10~3 月)	院内ワーキンググループ等で検討、基本計画の策定
H 2 6 年度 (4~9 月)	実施設計 約 6 ヶ月
(10~12 月)	発注・準備期間 約 3 ヶ月
(1 月頃)	新棟工事着手
H 2 8 年 5 月頃	新棟完成見込み、新棟へ医療機器等を搬入
H 2 8 年 夏頃	新棟オープン

新棟の効果

1 県民の医療サービスの向上

- (1) 手術待ちやMRI、CT検査待ち期間の短縮
 - ・ MRI 検査待ち時間の短縮 (現在: 7 週間→1~2 週間)
 - ・ CT 検査待ち時間の短縮 (現在: 4 週間→1~2 週間)
 - ・ 内視鏡治療待ち時間の短縮 (現在: 3 ヶ月→1 ヶ月以内)
 - ・ 手術可能件数が 2 割増加 (外科で 1 ヶ月を超える手術待ちでかなりの時間短縮)
- (2) 患者プライバシーに配慮した内視鏡の検査・治療室等の整備
 - ・ 治療前の不安緩和のためのゆったりとした待合室を整備
 - ・ リカバリー室 (治療後に休憩する室) の拡充
- (3) 身体的負担の少ない鏡視下 (内視鏡) 手術の充実強化
 - ・ 各室の面積を拡充し、内視鏡モニター等を整備
- (4) ロボット手術やハイブリッド手術等の高度先進的な手術に対応
 - ・ 手術しやすく患者の回復が早いロボット手術や、外科手術とカテーテル治療が同時にできるハイブリッド手術を実施

2 優れた人材の確保、次代の医療を担う人材育成の推進

- (1) 最先端手技・治療の導入による臨床研修医や優れた医療従事者の確保、専門性の向上
- (2) メディカルシミュレーションセンターにおける救急蘇生法等による県民参加型の実践研修により、人命を救う県民意識の高まり

3 大規模災害や感染症発生時の危機管理体制の強化

- ・ 大規模災害時や新型インフルエンザ等の感染症パンデミック期における緊急対応治療・病室の確保

新棟の主な機能

- がん等の診断を最先端のMRI・CT等の高度検査機器による精密診断で早期発見を行う「高度画像診断センター」
- 食道・胃・大腸がん等の早期がんに対して内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) など最新の内視鏡治療を行う「内視鏡センター」
- 通常時は集中的治療・看護を行う高度集中治療室として、また、大規模災害時や新型インフルエンザ発生時は緊急対応病室として活用する「高度集中治療センター」
- がん患者等に身体的負担の少ない鏡視下手術やロボット手術など先進的な手術を行う「低侵襲手術センター」
- 救急蘇生法など処置・治療を模擬体験できる機器を揃え、院内研修医、新任看護師はもとより、地域の医療従事者や一般県民を含めた実践研修を行う「メディカルシミュレーションセンター」

事業費 (概算)

- 新棟建設 (鉄骨鉄筋コンクリート4階建)
延床面積 約 7,300㎡ 建設費 約 40 億円
- 主な医療機器
MRI、CT、手術支援ロボット、ハイブリッド手術機器
放射線治療機器 (中央病棟内で更新) 等

現有機 (1.5 テスラ) に比べ 2 倍の高画質、3D 画像、検査時間の短縮化 (30→20 分)
→ 診断精度の向上、早期発見

現有機 (64 列) に比べ 1/30 スピードで撮影、造影剤の使用量 1/2、被ばく量 1/4→診断精度の向上、患者負担の軽減

新棟 4 階建

4 階 低侵襲手術センター

鏡視下手術
ロボット手術
ハイブリッド手術
等の高度・先進手術が対応できる広い手術室の整備
計 9 室
(8m×12m : 1 室、8m×8m : 8 室)

内視鏡をお腹や胸の中に入れ、モニターを見ながら手術を行うもの。3~10cmの切開創を加えるだけの手術で、開腹手術に比べて患者負担小

- ① 肉眼の 10 倍の視野で、術部を 10 倍に拡大可能、
- ② 傷口はアーム挿入の 8~12mm×6 ㎝ 程度のみのみ、
- ③ アームは複雑 (360 度回転) かつ繊細に動き、安全な手術が可能。

手術台と心臓・脳血管造影装置を組み合わせた手術。3次元画像を観察しながら、外科手術とカテーテルを使う内科的治療を一つの手術室で実施可能。

3 階 高度集中治療センター

高度集中治療病床 16 床
感染症用陰陽圧可変病床 1 床
大規模災害時や新型インフルエンザ発生時には緊急対応病床に変更使用。
さらに 15 床追加可能 計 32 床
15 床スペースは、通常時、メディカルシミュレーションセンター兼会議室として活用

2 階 内視鏡センター

内視鏡治療患者数の増、内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) など最新の内視鏡治療、緊急内視鏡治療に対応できるスペースを整備

消化器内視鏡室	8 室
気管支内視鏡室	1 室
内視鏡専用透視室	2 室
リカバリー室	12 ベッド

1 階 高度画像診断センター

検査待ちの解消、最新の高度検査機器の設置に十分対応できるスペースを整備

MRI	2→3 台体制 (最新の 3 テスラ機の導入)
CT	2→3 台体制 (最新の 320 列機の導入)

磁力の大きさで、大きいほど、高精細な画像を得ることができる。